

氏名： 加賀美 常美代 (KAGAMI Tomiyo)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 准教授
学位： 文学博士 (東北大学)
専門分野： 異文化間心理学、異文化間教育、多文化間カウンセリング
URL： <http://jsl.li.ocha.ac.jp/kagami.htm>
E-mail： kagami.tomiyo@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

異文化間コンフリクト／多文化間カウンセリング／教育価値観／コミュニティアプローチ
intercultural conflict / multicultural counseling / educational value / Community approach

◆主要業績

総数 (8) 件

- ・加賀美常美代・守谷智美・岩井朝乃・朴志仙・沈貞美 (2008) 「韓国における子どもたちの日本イメージの形成過程—9分割統合絵画法による分析から」異文化間教育 第28号 pp60-73 異文化間教育学会, 2008年7月
- ・加賀美常美代・朴志仙・守谷智美・岩井朝乃 (2008) 「韓国の小・中・高・大学生の日本イメージと関連する要因—日本語学習と異文化接触に焦点を当てて—」日本語教育学会国際大会予稿集 pp182-185, 2008年7月
- ・加賀美常美代・守谷智美・楊孟勳・堀切友紀子 (2008) 「台湾における日本イメージの形成過程—描画の分析から」2008年度異文化間教育学会第29回大会予稿集 pp68-69, 2008年5月
- ・お茶の水女子大学の国際意識とキャリア形成に関する調査研究 報告書 pp1-163 2009年3月
- ・倫理問題に関するアンケート調査 (2008) コミュニティ心理学研究 11-2号, pp210-219, 2008年9月

◆研究内容 / Research Pursuits

1. アジア諸国の日本イメージの形成過程と規定要因
CSDの異文化間コミュニケーション・プロジェクトで、台湾と韓国の小学生から大学生までの日本イメージ形成について、描画の質的分析及び質問紙調査の統計的分析をより詳細に実施した。また、文献研究も進め背景要因を検討した。

2. コミュニティ・アプローチに関する倫理的問題
コミュニティ心理学学会倫理委員会による『会員の倫理に関する意識』の調査を行なった。実践・教育・研究現場ではどのような問題が生じているのか、コミュニティ・アプローチを実践する上での問題点を明らかにした。

3. お茶の水女子大学生の国際意識とキャリア形成
2005年から2007年までのお茶の水女子大学新入生の国際意識調査をもとに、6つの関連論文をまとめた報告書を作成した。グローバル社会における国際交流態度、多文化理解態度、国際協力や国際交流関連のキャリア意識を検討した。

1. Perceptions of Japan in Asia : an analysis of images.

The objective of this study is to investigate how Korean and Taiwanese children form their images of Japan by using qualitative and quantitative research on Intercultural Project of CSD.

2. Ethical issues on community approach

Ethical committee of Japanese Society of Community Psychology surveyed member attitudes toward consciousness on ethics. The purpose of the survey was to clarify what kind of issues members face in the fields of clinical care/ education and research.

3. Attitudes toward consciousness on international exchange and career shaping

A report was drawn up, by compiling six related research papers from 2005 to 2007. These research papers were on students' attitudes of Ochanomizu University toward consciousness on international exchange, multicultural understanding, career shaping in terms of international cooperation.

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部の「多文化間交流論」は、参加型授業、協働的グループ活動を行った。留学生と日本人学生の交流、コミュニケーション・スキルの向上を目指した。

「多文化共生論」は、4名のゲストスピーカーを招き多文化共生社会の理解とグループ討論を行なった。

「文化と人間関係 I」では、文化行動と心理学的理論をゼミナール形式で行った。

「学校カウンセリング(教職)」では、コミュニティアプローチによる心理教育的援助の講義のほか、スクールカウンセラー、組織カウンセラー、帰国生担当教員、養護教員をゲストスピーカーとして招聘した。

大学院の「多文化間心理教育学特論」では、文化と心理学の理論と研究方法について文献講読を通して講義を進めた。

「多文化間心理教育学演習」では、多文化間カウンセリング、積極的傾聴、予防的支援活動の方法のスキル向上を目指した。

I delivered lectures of “Multicultural communications and exchange” and “Coexistence in Multicultural society” for undergraduates. In these lectures, I adopted the methods of cooperative group work. I aimed at their improving of foreign and Japanese students’ communication skill in the former, and, in the latter, I invited guest speakers in order for them to improve multicultural understanding and diversity.

In “Culture and Human relationship I” for undergraduates, I delivered lectures on cultural behavior and social psychology.

In “School Counseling” for undergraduates, in addition to my lecture on psychological support by community approach, I invited school counselor, organization counselor, teacher of returnee students and nurse-teacher as guest speakers.

For graduates, I taught “Intercultural Psychology and Education” . In this lecture, I put emphasis on methodology of intercultural communication research.

In “Seminar in Intercultural Psychology and Education” , I aimed at their improving skill of multicultural counseling, active listening and preventive support activity.

◆研究計画

- ・多文化間の教育に関わる人々、多様な国籍の人々を対象に、葛藤解決方略と教育価値観、文化的価値観の関連を比較検討する。
- ・教育価値観の世代間比較を行い、教育価値観尺度の有効性について検討する。
- ・アジア諸国の小学生から大学生までの対日イメージ形成過程についての調査の質的、量的分析を進め、多角的に分析を行い、問題と今後の課題を明らかにする。
- ・異文化間コンフリクト解決プログラムの開発を検討する。

◆メッセージ

多様な文化的背景をもつ人々は、日常生活で遭遇する異文化体験から様々な葛藤やストレスを抱えています。異文化接触のメカニズムを理解するとともに、周囲にいる人々は彼らをどのように理解し、関わっていったらよいでしょうか。

コミュニティにおける多様性の意味や文化的背景の異なる人々と共に生きることはどのようなことか、一緒に体験しながら考えていきたいと思っています。